

8. 支柱の高さ・角度調整

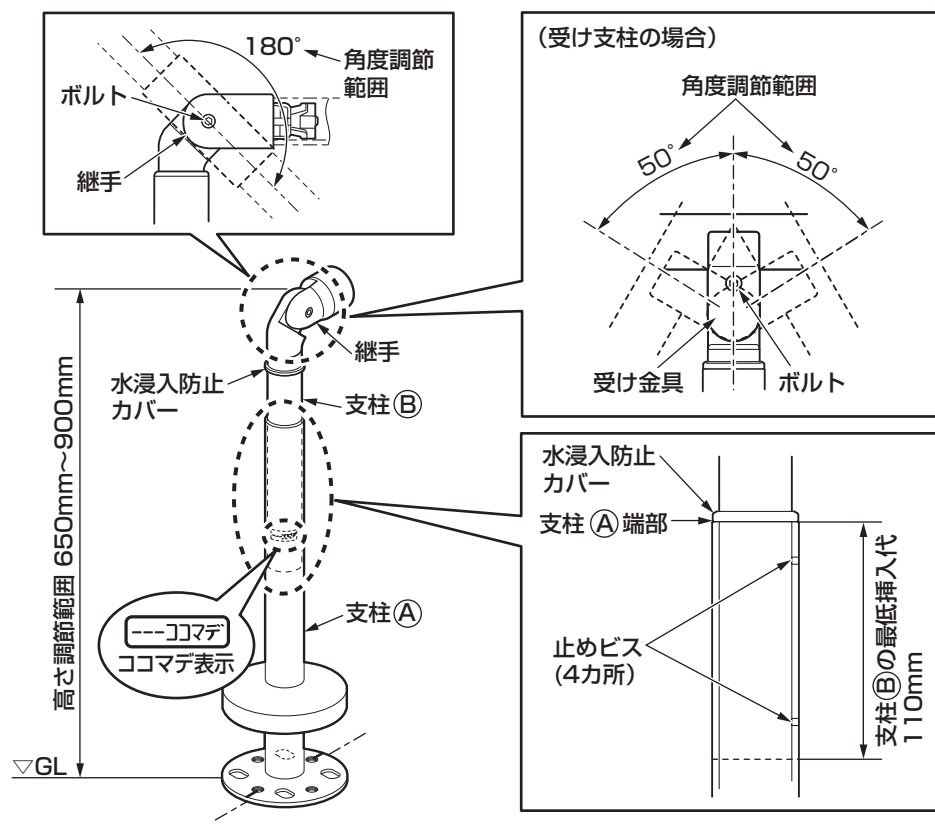
高さ調整を行う（支柱（高さ調節機構あり）の場合）

GLより650～900mmの範囲で調節が可能。

- ①支柱の側面にある4カ所の止めビスをゆるめ、高さを調節する。その際、「ココマデ」表示以上に支柱ⓑを伸ばさない。
- ②止めビスは、六角棒レンチで4カ所すべて均等に締め付ける。
- ③表面から止めビスが飛び出していないことを確認する。

角度調整を行う

- ①支柱の受け金具または、継手をボルトで軽く締めて取り付ける。
- ②手すりバーのおよその角度を出し、六角棒レンチで仮固定する。



9. 手すりバー長さの算出、切断

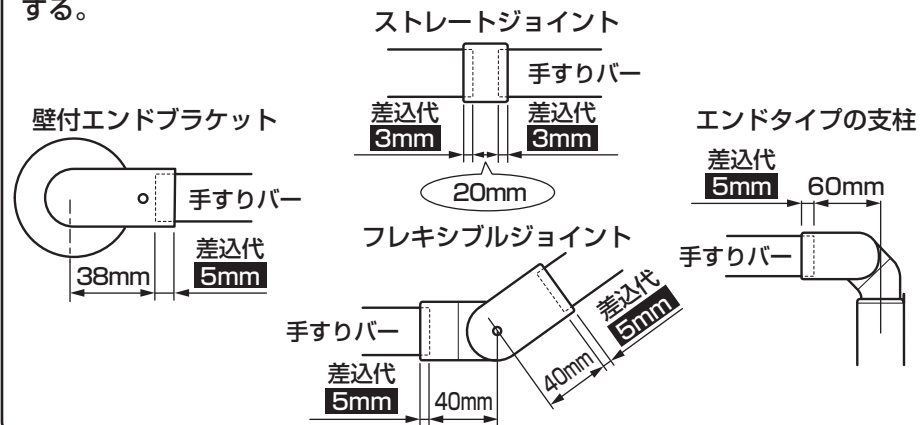
1 手すりバー長さの算出

- ①手すりバーの長さ測定を行う。
- ②手すりバーを切断するため、長さを算出する。

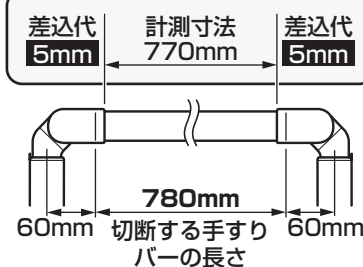


<手すりバー長さの算出方法>

測った寸法に、手すりバー差込代（下図 **白又キ寸法** 参照）をプラスして算出する。

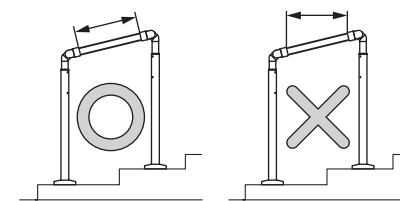


例)



傾斜した手すりの場合は、傾斜寸法で測定する

重要



2 手すりバーの切断

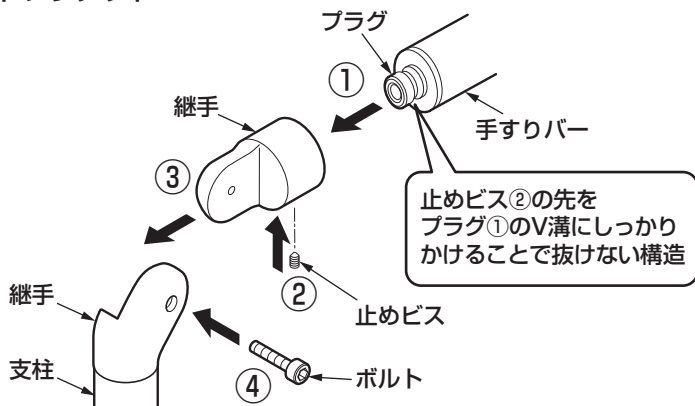
手すり表面を養生し、切断機にて手すりバーの軸に対して垂直に切断する。切断面のバリをヤスリか面取器で取り除く。



10-1. 接続部の組立

主な継手部の接続構造

エンド支柱、フレキシブルジョイント、ストレートジョイント、壁付エンドブラケット



警告

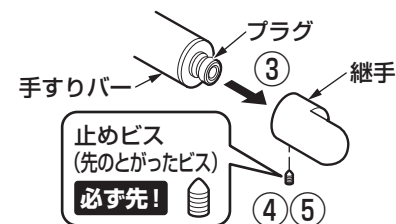
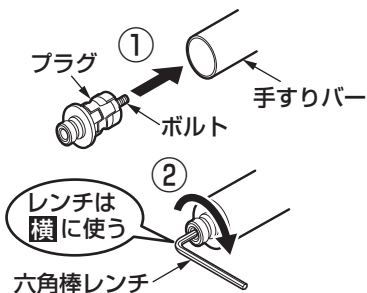


必ず実行

止めビスを先に固定し、次にボルトを固定する手順を守る
手すりバーとプラグは、すき間がないように差し込む
手すりバーのプラグは継手の奥まで確実に差し込んで取り付ける
手すりバーが外れて、事故やけがの原因になるおそれがあります。

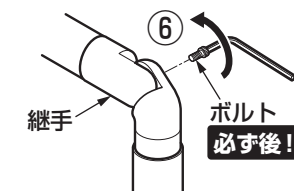
エンド支柱

- ① プラグを手すりバーの内側に差し込む。
- ② ボルトは、六角棒レンチ（呼び寸法5）でしっかり締め付ける。
- ③ 仮固定した継手のボルトをゆるめて取り外し、継手にプラグを奥まで差し込む。
- ④ 止めビスを六角棒レンチで回し、プラグを仮止めする。その際、継手は軽く回転する状態にしておく。
- ⑤ 継手と支柱の接合する面を平行にあわせるように調整し、止めビスを締め付けて本固定する。
- ⑥ 最後に継手側面のボルトを締め込む。



ポイント

必ず先に止めビスを固定し、次にボルトを固定する手順を守る。手すりバー長さの微調整が必要な場合は、床フランジの長穴で調整する。(床アンカー式の場合)



警告



必ず実行

止めビスを先に固定し、次にボルトを固定する手順を守る
手すりバーのプラグは継手の奥まで確実に差し込んで取り付ける
手すりバーが外れて、事故やけがの原因になるおそれがあります。